東北学院大学

土樋キャンパス	〔大学院〕文学研究科／経済学研究科／経営学研究科／法学研究科 〔学　部〕文学部・経済学部・経営学部・法学部（各3・4年） 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 TEL 022-264-6421（総務課） FAX 022-264-3030（　〃　）	多賀城キャンパス	〔大学院〕工学研究科 〔学　部〕工学部 〒985-8537 多賀城市中央1丁目13-1 TEL 022-368-1116（庶務係） FAX 022-368-7070（　〃　）	泉キャンパス	〔大学院〕人間情報学研究科 〔学　部〕文学部・経済学部・経営学部・法学部（各1・2年）／教養学部 〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1 TEL 022-375-1121（庶務係） FAX 022-375-4040（　〃　）

東北学院大学後援会通信GROWTH（グロース）vol.33

発行日／2018（平成30）年10月
編　集／東北学院大学後援会事務局（総務部総務課内）
発　行／東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1　TEL 022-264-6411　FAX 022-264-3030
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp　URL http://www.tgu-kouenkai.org/
制　作／Hi creative inc.

GROWTH（グロース）の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」（マタイによる福音書13章32節）、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」（コリントの信徒への手紙一3章6節）と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を充分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するようにという期待が本紙に込められています。

【本紙における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】
本紙に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本紙に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本紙の無断転載はお断りしております。

■本紙に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

大学と家庭をむすぶ

GROWTH

後援会通信
グロース
vol.33
2018
AUTUMN

教養学部 人間科学科 准教授
坪田 益美
TSUBOTA Masumi

教養学部 言語文化学科 准教授
Dale K. Andrews
アンドリューズ・デール・ケネス

教養学部
30周年
特集号

語り合う
TGU
TALK

よりよく、自分らしく。人生は〝教養〟で強くなる。

案内人
水谷 修
MIZUTANI Osamu
教養学部長

東北学院大学

http://www.tgu-kouenkai.org/

よりよく、自分らしく。
人生は“教養”で強くなる。

平成元（1989）年春に、東北学院大学５番目の学部として発足した教養学部もおかげさまで30周年を迎えます。ここ泉キャンパスから巣立った卒業生は8,000名を超え、家庭・職場・地域で、様々な役割を担い活躍しています。その基盤となっているのが、学部の理念である「人間生活の抱える種々の問題に対処する『新しいタイプの教養人』」としての資質です。私たちは、これからも、現代社会で活躍する「教養人」が育つ学部であり続けたいと考えています。そして、本学部での学びと探究の豊かな源泉となっているのが、多様な専門分野を持つ、個性豊かで熱意のある教員約90名です。本日は、教養学部の教員として8年目の同期生、アンドリューズ・デール、坪田益美、両准教授とともに、新しい時代に向けた「教養人」の育成の可能性について考えてまいります。

教養学部長・水谷修

教養学部 人間科学科 准教授
坪田 益美
TSUBOTA Masumi

教養学部 言語文化学科 准教授
Dale K. Andrews
アンドリューズ・デール・ケネス

時代・社会とともに変化する“教養”のしなやかさ。

水谷　平成元年に一学科三専攻の体制で発足した教養学部も30周年を迎えました。平成17年度には、時代と社会の要請に先行する取り組みとして学部改組を行い、一学部四学科の体制で再スタートしています。さて、多くの人は「教養人」という言葉を聞いて、現実世界の問題とやや距離を置きながら、古今東西のさまざまな知識を身につけている人物というイメージを抱くかもしれません。しかし、現代社会で求められる教養人というのは、現実世界の諸問題にまっすぐ向き合い、その解決に導くための論理や多様な視点、方法論、そしてそれらの基礎となる知識を身に付けた人のことを指すのではないでしょうか。本日はアンドリューズ先生、坪田先生と共に、現代社会で求められる「教養人」について考えていきたいと思います。まずはお二人それぞれのご専門と研究テーマについてお聞かせください。

アンドリューズ　私はアメリカの大学（学部）を卒業後、東北大学に留学し、大学院入試を経て、文学研究科に進学しました。専門は宗教民俗学のなかのシャーマニズム（巫女や祈祷師の能力により成立している宗教や宗教現象）の研究で、修士、そして博士号を取得しています。シャーマンと言えば、恐山（青森県）のイタコなどが特に知られています。修士課程では、東北地方に特有の「カミサマ」について、主に弘前周辺の聞き取り調査を基に研究しました。博士課程では、青森の小さな農村に移住して、村社会の一員として生活しながら宗教や信仰の姿について探究しました。その折に知った「本家・分家」という制度/仕組みは、アメリカには見られないもので非常に魅力を感じました。本家・分家は、地域コミュニティにおける政治や経済、また若者が自己を確立していく過程でも大きな役割を担っているのです。興味深いですよ。

坪田　私の専門は社会科教育学です。これは教諭を目指す学生に対し、（学校教育における）社会科の教授法について教え、また一緒に考えていくものです。実は社会科というのはアメリカでは1910年代後半、日本では戦後に形成されて発展していった新しい教科目です。ですから研究によって新しい知見や成果を生み出していくという意味では、

とてもやりがいのある面白いフィールドです。あえて言えば、絶対的な正解がないという点が難しいところですね。新しい取り組みの結果を得るには、10年20年、時にはもっと長い時間による考証を経なくてはなりません。先導者の責任は重いですね。生涯学習論がご専門の水谷先生は、現在進行形の人づくりの現場をよくご存知かと思います。

水谷　私の研究の出発点、興味の原点は「人は何を手がかりに、ひとかどの人間になっていくか」ということでした。広く言えば若者の自己形成です。学歴をバックに上り詰めていくトップエリート層についての研究は多々ありますが、“二番手”や市井の人びとを対象とした研究はあまりなされていませんでした。私は明治期や大正期の若者が学校教育だけでなく、地域の資源（人物、文化、場など）を生かして学び、自己を確立していく様を描き出そうと考えました。このことを現代社会に置き換えながら、平成17（2005）年から始まる宮城県の学校と地域の協働教育事業など、青少年育成への地域のかかわりに関する取り組みに参加し、様々な方と一緒にその仕組みや方法などについて考えてきました。当時の「みやぎらしい協働教育推進事業（現：みやぎの協働教育・教育応援団）」と銘打った取り組みは、公民館などの学校以外の組織にコーディネート機能を置いて、家庭、地域と学校、そして子どもたちと大人を有機的につなぐという先進的なもので、全国的にも注目を浴びました。また、多様な分野で活躍する大人が、自分の人生観や職業観を高校生・大学生に車座で語るという、大人と若者の出会いの機会をコーディネートするNPO活動にも関わってきました。これらは「若者育て」と「地域づくり」を併せ持った取り組みといってもいいかもしれません。さて、ロールモデルとして両先生はとてもユニークな存在だと思いますが、いかがでしょう。

坪田 益美 准教授　つぼた ますみ
埼玉大学大学院修士課程修了、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程単位取得退学。修士（教育学）。2011年東北学院大学教養学部人間科学科講師、2013年より現職。
専門は社会科教育学。
担当科目：市民性育成の教育論、教科教育法（社会・地歴・公民）Ⅰ～Ⅳ

Dale K. Andrews 准教授
アンドリューズ・デール・ケネス
24才で米空軍退役、南イリノイ大学卒、東北大学大学院修士課程修了、同大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（宗教学）。東北大学大学院文学研究科助手。金沢大学文学部准教授。2011年より現職。
専門は宗教民俗学・宗教人類学。
担当科目：英語コミュニケーション、異文化コミュニケーション

多様であることの可能性と豊かさを知ってほしい。

アンドリューズ　キャリアの多様性を示すという意味では、私は良い見本かもしれません（笑）。実は私は高校を卒業してすぐに大学に入るという進路選択をしなかったのですね。小さい頃から「世界を見てみたい」「母国以外で暮らしてみたい」と思っていて、その手段として米空軍を志願しました。念願かなって入隊3年目に沖縄に配属されましたが、そこで偶然にも沖縄の友人を通じて「ユタ（霊媒師）」の存在を知りました。私が属する文化圏にはないものであり、シャーマニズムの原体験でした。これが数年後に、私の専門に結ばれていくのですから、人生は面白い“出会い”に満ちていますね。

坪田　そうですね、出会いはいろいろな気づきをもたらしてくれますし、新しい世界を拓く原動力になってくれます。私は働きながら夜間大学で学んだのですが、そこではいろいろな人たちとの得難い出会いがありました。知的な好奇心・探究心もさらに高まり、海外留学も果たし、大学院へも進学しました。指導教官を始めとして、「私ももっと努力しなければ」と思わせてくれる人生の先輩もいて、教え導かれ、また刺激を受けて学術研究の道へ足を踏み入れました。20代は貧乏でしたが（笑）、自分のアンテナに引っかかったものを追いかけたり掘り下げたりすることに熱中した日々でした。試行錯誤のこの期間、他でもない自分自身の人生を立ち上げていくための、目に見えない“財産”を蓄えることができました。

水谷　奇しくも今、坪田先生が人生を立ち上げていくための財産とおっしゃいましたが、まさに「教養」は“自分らしく生きる方法論”ということもできます。生きていく上で、私たちは個人的な、あるいは社会的な問題に出会います。それをどういう視点でとらえ、分析し、どんな方法で解決に導いていくのか…そのための知力と思考力、行動力のバックボーンとなるのが教養です。また多くの課題は一人で解決を図ることはできませんから、他者と協働するための意欲や態度、また調整役として活躍していくための心構えなども含まれますね。グローバル時代という視点から捉えると、英語によるコミュニケーション能力も教養の範疇に入ると思いますが、そのあたり英語の授業を担当しておられるアンドリューズ先生はどうお考えですか。

アンドリューズ　少なくとも在学生たちは中学・高校と英語を学んできています。受験対策として一生懸命勉強したという学生もいます。知識としてまったくないわけではないのに、なかなか言葉に出したがりません。それは、完璧な英語を話そうとするからなんですね。でも、ネイティブスピーカーたちはどうでしょう。正しい文法の下、会話をしているわけではありません。言葉は、コミュニケーションの道具です。意思を伝えるのに、失敗を恐れる必要はないのです。とはいえ私の場合も、日常会話を学ぶ段階はとても楽しかったのですが、大学院入試のための日本語学習は苦痛でした（笑）。一方で、完璧であろうとするのは、日本文化の良さである点も付け加えておきましょう。

地域の中にある大学、そして学ぶ意欲を支える教育機関として。

水谷　さきほど坪田先生が“出会い”と“気づき”についてお話しくださいましたが、多彩な「知」に触れられることも本学部の大きな特徴ですね。

坪田　学びの入り口がたくさんあるというイメージでしょうか。ノープランで入学する学生も多いのですが、本学部の豊かな学びの庭で、何かを見つけて育んで、社会に巣立ってほしいと思っています。多くの学生は、高校までは与えられる学習が中心だったと思います。大学に入って初めはのんびりしていた学生も、卒業研究に入った途端、学びや探究というものと真正面から向かい合うことになります。スイッチが入ると、必死に自分から指導を求めるようになります。かつては半ば嫌々指導を受けていた学生が、「ありがとうございました」と、自然と指導に感謝するようになったりします。研究が自分のものになったんだなと、成長を感じるとても嬉しい瞬間です。本学部には伸びしろのある学生さんが多いですね。頭の中で点状に分布している知識を、助言や示唆でつないであげた時、「なるほど。わかった」というように顔がパッと輝くのです。教師冥利に尽きる瞬間です。

アンドリューズ　学生さんの成長に接すると、教師になってよかったと心から思います。涙が出てきます(笑)。また、大学の役割ですが、若い人に必要な学びもあれば、社会人が求める学究もあるでしょう。私は米空軍を除隊した20代半ばに、大学に入りましたが、キャンパスには実に様々な背景を持つ人びとがいました。リタイアした人や子育てを終えた女性、中には80歳を超えてなお向学心を抱く方もいました。私もそんな方々と接し、新しい価値観を見出だすことができました。人生は決まりきった一本道ではない、と思えることは、失敗を恐れる若者を勇気づけるものだと思います。

水谷　教養学部は、2023年4月に仙台市青葉区五橋に移転します。新キャンパスは交通至便な街の中心部に位置しています。ここでは地域に開かれた大学・学部として幅広い教養を身に付けるための生涯学習の機会を充実させるとともに、自らの専門性を向上させたいという社会人の学び直しを積極的に支援していきたいと思っています。

坪田　本学部が継続して開催している市民に向けた公開講座もとても人気がありますね。身近な出来事や現象を、学問というメガネを通じて考察するとこんな風に捉えられますよ、と紹介していくのですが、聴講者の皆さんは新しい発見や驚きがあるようです。

水谷　私は、“面白くてためになる”を学部のテーマの一つに掲げてきました。学びは一生涯続きます。特にこれからの「人生100年時代」においては、一つの会社や仕事で職業人生を終えることは少なくなり、複線的・重層的なキャリアやビジネススキルの開発が必要になってくるでしょう。学び直しが必須になりますが、社会人、または家庭人となって自ら学ぶための土台となってくれるのも教養の力です。

アンドリューズ　冒頭、水谷先生がおっしゃったように、本学部は様々な専門を持つ教員がいますが、「過去・現在・未来」を通じた人間の英知・技術を学べる、とも表現できると思います。ぜひ本学部で吸収した知識をポケットいっぱいに詰め込んで卒業してほしいですね。そして人生の折々に取り出して活用してほしいです。

水谷　五橋キャンパスには工学部も移転してきますし、土樋キャンパスとも近くなりますから、文理融合、学問横断型の教育・研究活動がさらに活発になっていくことでしょう。時間はかかるかもしれませんが、新しい研究領域を生み出し、より豊かな社会に向けた新しい価値を創造できるかもしれません。そうなると、学際性や総合性という教養学部のアイデンティティを継承しつつ、新たな学科が構想されたり、新たな学部へと発展していく可能性も否定できません。それは継続的な連携や協働の積み重ねの上になされるものだと思っています。また、そのようなことが可能な柔軟性のある学部でありたいと思っています。さらには、地域の諸機関・団体とともに研究したり、研究の成果を地域に還元するアウトリーチにもさらに力を入れていきます。今後も、どうぞ教養学部の活動にご注目ください。アンドリューズ先生、坪田先生、本日はありがとうございました。

水谷　修　みずたに おさむ

東京教育大学卒、筑波大学大学院満期退学。日本学術振興会奨励研究員、筑波大学助手を経て東北学院大学講師・助教授・教授、2016年4月より教養学部長併任。
生涯学習論が専門で、著書に『地域をコーディネートする社会教育』(共著)などがある。社会的活動では、宮城県社会教育委員会議委員長として「地域をつくる子どもたち」などの意見書の取りまとめや、キャリア教育支援のNPOの活動などに参加。日本生涯教育学会長賞、文部科学省社会教育功労者表彰を受賞。

30th Anniversary

教養学部 30周年記念イベント開催のお知らせ

開催日時　平成31(2019)年3月2日(土)　　入場無料

第1部 | 学びのオープンキャンパス 13:00〜16:30　会場:東北学院大学泉キャンパス

○ **総合研究発表 13:00〜14:20**
4学科から選ばれた優秀論文を発表する教養の広場です。

○ **「未来に響け！美しい東北のことば」公演とシンポジウム 14:45〜16:30**
「東北のことばには東北の心が宿っている」美しい東北のことばで多くの人の心を励ましてきた「東北弁落語」と「東北シェイクスピア」を招いて公演します。さらに教養学部気鋭の教授陣に、東北のことばについての思いを語っていただくミニシンポジウムを実施します。

■公演

東北落語
『なまって笑って コミュニケーション』
六華亭遊花
(落語芸術協会・三遊亭遊座一門)

東北シェイクスピア
『奥州幕末のハムレット』
『温泉旅館の ロミオとジュリエット』
シェイクスピア・カンパニー

■ミニシンポジウム
司会:柳井雅也(地域構想学科教授)
シンポジスト:アンドリューズ・デール(言語文化学科准教授)、金菱清(地域構想学科教授)、増田寛子(言語文化学科4年)

第2部 | 教養学部設置30周年祝賀会 18:30〜(開場18:00)　会場:江陽グランドホテル

後援会総会・大学開放プログラム

2018（平成30）年5月26日（土）

土樋キャンパスにおいて、約790名の保護者をお迎えし、「平成30年度東北学院大学後援会総会」と「大学開放プログラム」を開催しました。

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂で行われた後援会総会では、鎌田宏後援会会長が議長を務め、平成29年度の後援会収支決算及び会計監査報告、平成30年度後援会予算案や事業計画などを説明。お集まりいただいた多数の保護者の方々にご承認いただくことができました。

大学開放プログラムでは、礼拝堂でのパイプオルガンコンサートや大学礼拝、東北学院史資料センターや中央図書館などを自由に見学できる施設開放、歴史的建造物を学生の案内で巡るキャンパスツアーも行われました。

教養セミナー終了後は、ホーイ記念館で1・2年生対象と3・4年生対象に分けた学生の就職を考えるセミナーが実施され、最新の就職事情や保護者のサポートなどについての説明を行いました。

後援会総会 10:55−12:00（礼拝堂）

議事報告

（1）平成29年度後援会庶務報告について

白木進庶務担当理事より、役員人事、平成29年度役員会、平成29年度後援会総会並びに大学開放プログラム、平成29年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認されました。

（2）平成29年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告について

浅野ひとみ会計担当理事より報告があり、原案通り承認されました。
佐浦みどり監事より、帳簿等が正確に整備されていることについて監査報告がなされました。

（3）東北学院大学後援会会長の選任について

東北学院大学後援会会長の選任について、引き続き鎌田宏会長が推挙され、満場一致で選任されました。

（4）平成30年度後援会事業計画（案）について

白木進庶務担当理事より、平成30年度後援会総会、平成30年度地区後援会について説明があり、原案通り承認されました。

（5）平成30年度後援会収支予算（案）について

浅野ひとみ会計担当理事より説明があり、原案通り承認されました。

来年度は2019年5月25日（土）に開催の予定です。案内状は4月下旬に発送の予定です。

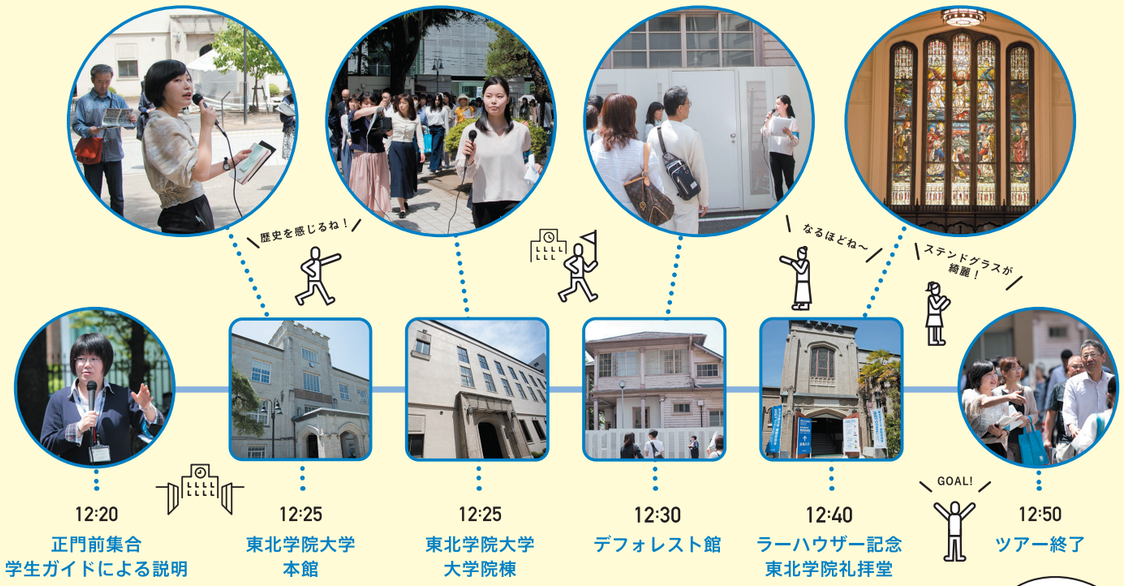
学生の案内で巡る

キャンパス見学ツアー

12:20−13:30
1回目 12:20 | 2回目 12:40 | 3回目 13:00

見学 歴史的建造物

東北学院旧宣教師館＜デフォレスト館＞【重要文化財】
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂【登録有形文化財】
東北学院大学本館、東北学院大学大学院棟



キャンパス見学ツアーに参加して

- 子供が学んでいる大学の歴史に触れたくて参加しました。神学校としての古い建築物を大切に使っていると感じました。
- 学生ガイドさんの案内でなかなか見る機会のない歴史的建造物を見学できて良かったです。
- 学生ガイドが約130年の歴史を分かりやすく説明してくれたので、理解できました。
- 礼拝堂にあるステンドグラスが素晴らしいと思いました。

私たちが案内しました

学生ガイド

左から：
経済学科（3年）　阿部愛美さん
経済学科（4年）　品川　咲さん
経済学研究科博士後期過程（3年）
雲然祥子さん
人間情報学研究科 研究生
帖佐和加子さん

保護者と学生のための教養セミナー

フリーキャスターの堀尾正明氏を講師としてお招きし、「ことばの力〜コミュニケーションと人間力〜」と題した教養セミナーが礼拝堂で行われました。軽妙な話術と豊富な情報量で保護者の方々を引き込み、「聞く力、話す力など、声の大きさや顔の表情なども含めてコミュニケーション能力だと思います。そして、これからの時代とても重要視されてきますので、ぜひ皆さんコミュニケーション能力を高めていってください」とお話をされました。

その他様々な催しがありました。

パイプオルガンコンサート

個別面談コーナー

学生の就職を考えるセミナー

東北学院大学 地区後援会

2018（平成30）年7月14日（土）～9月9日（日）

全国26地区※で地区後援会を開催し、本学教職員による東北学院大学の近況報告や個別面談、一部の地区では若手卒業生による体験談の発表が行われました。

※予定しておりました札幌地区後援会は、北海道胆振東部地震の影響により中止いたしました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

プログラム

- **大学からの挨拶**
  本学の教育方針・近況の報告など
- **3部からの説明**
  ・学務部…「進級・卒業」「成績通知書の見方」「科目登録」など
  ・学生部…「奨学金」「課外活動」「アルバイト」など
  ・就職キャリア支援部…「就職活動」「教員・公務員への試験対策と準備」など
- **若手卒業生による先輩体験談**
  青森・秋田・盛岡・山形・福島・郡山地区のみ
- **大学紹介DVDの上映**
- **昼食会**
- **個別面談（希望者のみ）**
  さまざまな内容に対する相談を個別に行いました。

皆さまの声

- 来年3年生になりますが、就職についてどう話し合っていけばよいのか分からなかったところでした。丁寧な説明をしていただき、子供と向き合えると思いました。
- 先輩体験談では、就活経験者からの話は、一番聞きたかったので、とても満足です。保護者へのアドバイスも参考になりました。
- 卒業生の当時の学生生活や現在の生活ぶりを聞くことができ、子供の今後について家族内で話すネタとなりそうです。
- 個別面談では、親身になって相談にのっていただき、多少なりとも不安が軽くなったような気がします。
- 大学紹介ＤＶＤを通じて、大学の理念や将来像や日頃の活動状況も理解できてよかったです。

若手卒業生による先輩体験談

在学中の経験や仕事への思い、保護者の皆さまへの期待を若手卒業生に語っていただきました。

各県で活躍する20～30歳代前半の若手卒業生を招き、就職までの経緯や仕事への思い、保護者の皆さまに期待することは何かを、学生生活を振り返りながらそれぞれの言葉で語っていただきました。ここでは、福島地区後援会での卒業生２名の体験談について、その概要を紹介します。

若手卒業生 1

お子様の不安を受け止め、可能性を広げるアドバイスをしてほしい。経験に基づく言葉は、心にきっと届きます。

思想や哲学への興味から文学部総合人文学科に進学しました。2年次までは専門以外のことも幅広く学び、３年次は卒業論文執筆のための準備、そして4年次は卒論を中心としたゼミ活動に取り組みました。課外活動では漫画研究会に所属、サークルの仲間はもちろん、同じ学科の仲間との交流を通して、コミュニケーション能力を高めることができました。

就職活動で大切にしたのは、出身地の福島県に帰り、地元に貢献したいという思いです。地域の重要なインフラの一つである病院なら、地元貢献という自分の思いを実現できると考え、就職を決めました。将来の進路も含め、自分の道は自分で決めなければなりません。保護者の皆さまにお願いしたいのは、お子さんが不安を抱え立ち止まったとき、その不安を受け止め、可能性を広げるようなアドバイスをしてほしいということ。経験に基づく人生の先輩としての言葉は、お子さんの心にきっと届くはずです。

一般財団法人 大原記念財団
大原綜合病院 勤務
赤間 俊太 さん　文学部 総合人文学科 2018年卒

一般財団法人 大原記念財団
大原綜合病院 勤務
木戸 睦美 さん　法学部 法律学科 2017年卒

若手卒業生 2

子供が描くビジョンや考えを尊重し、後押ししてあげてください。保護者は、お子様にとって一番の味方です。

法律学を学んでみたいと考え、知名度の高い本学の法学部へ進学しました。学業に、アルバイトに、充実した4年間を送りましたが、心残りはサークルに所属しなかったこと。入学から2か月ばかり、福島市の自宅から通学していたため、サークルに入る機会を逃してしまいました。サークルに所属していれば、仲間たちとの交流を通してもっと成長できたのかもしれない、と考えることがあります。

就職が決まるまでには紆余曲折がありました。全国展開のドラッグストアから内定をいただいたものの、「これで本当にいいの？」とまだ迷い続けていた私に、両親はこんな言葉をかけてくれました。「最後まで頑張ってみたら」。そして、自分のしたいこと、働きたい場所をもう一度見つめ直す中で、現在勤務する病院と出合うことができたのです。子供が描くビジョンや考えを尊重し、後押ししてあげてください。保護者の皆さまは、お子様にとって一番の味方なのですから。

✦ はばたく・かがやく ✦

OB・OG訪問

大宮 和加子 さん

名取市立増田中学校
社会科教諭

2013年3月教養学部地域構想学科卒業。3年生の時から「教員試験対策講座」を受講。「元中学教員の方々からの指導が力になった」という。現在の中学校に赴任して3年目となる今年は１年の学級担任を担当、ソフトボール部の顧問でもある。大学時代は写真部に所属、「空ばかり撮っていました」。

「大学時代の経験を入口に授業づくり」

恩師への憧れから教師の道へ。
全力で生徒と向き合える教師をめざして。

中学校、高校時代はソフトボール部に所属していたという大宮さん。「将来は中学校の教師に」という目標も、中学校のソフトボール部時代に抱き始めたものだという。「顧問をされていた先生への憧れがきっかけです。叱るときは本気で叱る、全力で生徒と向き合ってくださる先生でした。教師として働くいまでも、私にとって理想の先生です」。

地域構想学科では、自然地理学を専門とする宮城豊彦教授のゼミに所属し、マングローブについて研究した。海外地域実習では、調査のためにベトナム・カンボジアへ。「海外での実習もこのゼミの魅力でした。この経験を入口に授業を組み立てると、生徒も興味を持って授業に入ってきます。大学時代も含め、さまざまな経験の中に教材のタネは転がっていると感じています」。

ソフトボール部でのポジションはずっとキャッチャーだった。「キャッチャーというポジションから学んだのは、先を見ることの大切さです。教師としてはまだまだ勉強中。先輩の先生からいろいろなことを学び、これからも生徒と一緒に成長していきたいと思います」。

名取市立増田中学校
■創立　1947年
■校長　鈴木 一史
■生徒数　710名（2018年2月現在）
■教育目標　「一人ひとりが光り輝く学校」
■所在地
〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田230
Tel. 022-384-2329　Fax. 022-384-2270
http://academic4.plala.or.jp/masu-jhs/

名取市立増田中学校の学区には、市役所や文化会館などの公共施設のほか、商店街や工場も集中。学区東南には、東北の空の玄関口である仙台空港があり、仙台空港アクセス鉄道の開業後は、大規模商業施設の建設や住宅地の造成が盛んに行われている。

✦ はばたく・かがやく ✦

OB・OG訪問

加藤 和彦 さん

塩竈港運株式会社
総務部 課長（外郭団体担当）

1993年3月教養学部教養学科人間科学専攻卒業。同年４月、塩竈港運送株式会社入社。1996年には仙台港に初の国際コンテナ定期航路が就航するのに伴い、その事業の立ち上げに参画、2003年から約３年間独立行政法人通関情報処理センター仙台事務所に出向し、所長代理を務めた。現在は、税関・植物検疫所・動物検疫所関連や国際コンテナ関連の外郭団体事務局を担当。

「港での仕事に自負と責任感を持って」

どんなことにも興味や疑問を持ち、
学ぼうとする姿勢が身に付いた４年間。

加藤さんは教養学部の1期生。「教養学」という新たな枠組みのもと、幅広い知識を修得できる点に魅力を感じ、入学を決めたという。「4年間の学びを通して得たのは、どんなことにも興味や疑問を持ち、学ぼうとする姿勢。仕事にも趣味にも、その姿勢は生かされています」。

「地域と環境」ゼミに所属した加藤さんは、港湾関連の専門家だった故・永野為紀教授のもとで総合研究に取り組んだ。テーマは「仙台港における小麦の背後地域」。小麦という輸入貨物をもとに、仙台港の背後地はどの範囲まで及んでいるかを調査した。「行政や企業に調査のアポイントを取り、現場で自ら聞き取りを実施。その結果、青森県から福島県南部までが仙台港の背後地であることを明らかにできました」。

就職先として選んだ塩竈港運送株式会社は、総合研究で調査を実施した企業の一つだ。「港湾が好きで、船に関わる仕事に従事したかったことが入社の動機です。日本の貿易の99.8%は船舶を利用しています。海と陸の結節点である港湾という場所で、経済の橋渡しをしているという自負と責任感。それがこの仕事の魅力です」。

塩竈港運株式会社
■創立　1944年
■代表取締役社長
徳永 政男
■従業員数　約270名
■資本金　1億2,000万円
■所在地（本社）
〒985-8522 宮城県塩釜市貞山通1-6-38
Tel. 022-364-5111　Fax. 022-367-1319
http://shiogama-koun.co.jp/

仙台塩釜港の発展とともに歩んできた同社は、2018年、「塩竈港運送株式会社」から「塩竈港運株式会社」へと社名を変更。貨物の積卸しに必要な人員や機材・施設はもちろん、様々な形式の船舶に柔軟かつ的確に対応できる作業技術とノウハウを有する物流企業として、「100年企業」を目標に掲げている。

ゼミ研究室探訪

人間を中心に据えたシステム開発を通して、社会で活躍できる能力を身に付ける。

松本 章代 研究室

教養学部 情報科学科

松本 章代 准教授

静岡大学大学院理工学研究科システム科学専攻博士後期課程修了、博士（情報学）。東京工業高等専門学校情報工学科助手、青山学院大学理工学部情報テクノロジー学科助手・助教、2010年東北学院大学教養学部情報科学科講師、2015年より現職。
担当科目：情報化社会の基礎、情報科学基礎教育、コンピュータと論理A、プログラミングの基礎、プログラミング初級、情報科学演習A・B、情報科学発展演習A・B、総合研究

先生ご自身の研究テーマは何ですか？

情報科学の研究分野の一つに人工知能がありますが、その中でも「自然言語処理」に関心を持って研究を進めています。コンピュータが使う言葉をプログラミング言語あるいは人工言語と呼ぶのに対し、自然言語は私たち人間が使う言葉です。私たちの言葉や意図を指示としてコンピュータに理解させるにはどうすればいいのか、それが自然言語処理という研究領域です。言語学と密接な関連を持ち、心理学や哲学との接点も多い、まさに本学教養学部の各学科間の境界にあるような学際的な分野といえます。
代表例として、最近ではスマホでの音声検索がありますが、私は書き言葉を対象に、人間が書いた文章をコンピュータに分析させて活用したり、Web上に膨大に存在するテキストデータの中から役に立つ情報を抽出して利用したり、といったテーマを扱っています。

研究室の学生はどんな研究に取り組んでいますか？

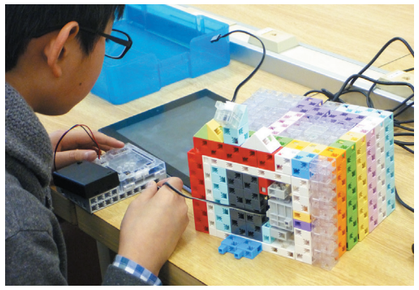
教養学部には情報科学科以外にも３つの学科があり、学生のまわりには様々な研究分野の学生や教員がいます。先端のテクノロジーを扱う工学部の情報系学科とは異なり、私たち情報科学科の学生は、人間を中心に据えたシステム開発に取り組むことになります。私の研究室では、主に教員の要望に応える教育系Webサービスやアプリの開発を行っています。言語文化学科のドイツ語教員からの要望に基づくドイツ語の会話練習のためのシステムの開発、学習到達度を示す指標の一つであるルーブリックをWeb上で編集・共有できる「ルーブリックバンク」の開発、研究室への学生の出入りをLINEによって管理するシステム、VR（バーチャルリアリティ）を利用した理科実験の体験アプリ開発などがその具体例です。学生には週１回の報告書の作成と説明を求めるなど、社会に出てから役立つ力を身に付けてもらいたいと考えています。

卒業後はどんな進路に進む学生が多いのでしょう？

研究の性質上、SE（システムエンジニア）になる学生が多いですね。SEという仕事は、顧客の要望を聞き、その要望に合致したシステムを設計し提案するというものです。研究室の学生の多くは、研究室に寄せられた他学科の教員の要望に耳を傾け、システムを開発するという経験をします。開発の先には、教員はもとよりシステムを利用する学生からの容赦ないクレームやさらなる要望が待っています。そうした経験を積み重ねる中で、SEとしての資質を備えたしっかりとした人材を輩出しているのではないでしょうか。

教養学部設置30周年記念事業
情報科学科公開講座

小中学生対象 プログラミング教室 開催！



2020年から小学校でのプログラミング教育が必修化されるのを前に、情報科学科では、小学4年生～中学生を対象としたプログラミング体験教室を開催します。目的は、プログラミング体験を通して「コンピュータに指示を出し思い通りに動かす楽しさ」を子どもたちに味わってもらうこと。松本章代研究室の学生が中心となり、このイベントの企画・運営を行っています。

■内容
第1回　9/29（土）：マイクロビットでプログラミングを学ぼう【基礎編】
第2回　10/27（土）：マイクロビットでプログラミングを学ぼう【応用編】
第3回　11/24（土）：手作り工作をプログラミングで動かそう【基礎編】
第4回　12/22（土）：手作り工作をプログラミングで動かそう【応用編】

■会場
東北学院大学土樋キャンパス　ホーイ記念館

まなぶ・そだつ

Student's Relay interview

津波被災地での
フィールド調査。
論文執筆にも挑戦中。

2年次の「発展実習」では、「東日本大震災以後建立された慰霊碑調査」をテーマに、慰霊碑建立までの経緯を当事者の方々に聞き取りを行う本格的なフィールド調査に取り組みました。調査地点は、震災後、地区の人口が2割近くまで減少、それでも地区に残る住民を中心に寄附を募り、2017年7月に慰霊碑を完成させた宮城県南三陸町の西戸（さいと）地区です。調査の中で感じたのは、「ふるさとを離れたみんなに戻ってきてほしい」という強い思い。また、未だ行方不明者がいる中での慰霊碑建立には、遺族の中にもさまざまな感情があることを知りました。報告書作成はすでに終了しましたが、担当の金菱清先生からの勧めで、現在論文としての執筆に取り組んでいるところです。

name:
石田 晃大 さん

class: **教養学部 地域構想学科**

grade: **2**

STUDENT'S VOICE

高校、大学とラグビー部に所属しています。部が掲げる今年度の目標は、全国大学ラグビーフットボール選手権大会での初戦突破。文武両道で頑張ります！

私のイチオシ

ネックスピーカー

一人暮らしで気を使うのは"音"。音楽や映像を楽しむのに、大音量はタブーです。そこでこのネックスピーカー。臨場感がぐんとアップし、とても重宝しています。

name:
加賀見 桐子 さん

class: **教養学部 言語文化学科**

grade: **3**

STUDENT'S VOICE

ベルギーから来た留学生との交流をきっかけに、高校2年の時からフランス語の勉強を始めました。大学でもフランス語の勉強を続け、7か月間のフランス留学も体験しました。

私のイチオシ

フランスの地図

2年次の夏から3年次の春にかけて、国際交流協定校であるフランスのサヴォア大学に留学しました。留学生の仲間などから寄せ書きをしてもらった地図は、私の大切な宝物です。

津波被災地である宮城県東松島市牛網地区で、野菜作りなどの農作業に取り組む「牛網農業塾」のメンバーとして活動しています。農塾の活動は2012年４月、教員の呼びかけに応えた言語文化学科の学生を中心に、津波で荒れた土地を拓くことから始まりました。野菜作りを指導してくださるのは、土地の持ち主でもある地元農家の熱海さん。農塾ではそのお返しとして、農作業終了後に熱海さんの農業復興のお手伝いをさせていただいています。現在栽培しているのは、トマトや安納芋、ピーマン、ナスなど。収穫した野菜は、キャンパスで配布会を開き、主に大学職員の皆さんにお配りしています。毎週日曜日の農作業は大変ですが、卒業までしっかり続けていきたいと思います。

農作業に汗を流し、
被災地の農業復興を
お手伝いしています。

クラブ紹介　日本語ボランティアサークル HANDS

日本語教育を通して地域の外国人を支援。

教養学部では、所定の科目単位を修得することで、日本語教員基礎資格という認定資格を取得することができます。この資格をめざす学生たちの悩みは、日本語教育の練習の場が少ないということ。4年次に2週間日本語学校での教育実習はあるものの、学内で普段から実践できる場がほしい!そんな思いが集まり誕生したのが、「日本語ボランティアサークルHANDS」です。日本語を教える学生と日本語を学びたい外国人受講者がお互い手を取り合って目標を達成しよう、という思いがこのサークル名には込められています。

発足当初、活動の中心を担ったのは日本語教員基礎資格の取得をめざす教養学部の学生たちでしたが、その後、外国人と交流したいといった動機で参加する学生も受け入れるようになりました。現在サークルメンバーとして登録しているのは、他学部の学生も含め約40名。外国人受講者は、小・中・高校で外国語指導助手(ALT)を務める先生や日本の大学・専門学校進学を目指し日本語学校に通っている学生、企業に勤務する会社員や実習生、地域の教会の牧師など職業、年齢、そして日本語のレベルもさまざまです。HANDSでは、最初に面接でニーズ調査を行い、それぞれの目的にあわせ、マンツーマンまたは少人数のグループで学習を展開。日常会話を習いたい、漢字を覚えたいなど、外国人受講者個々の要望に耳を傾け、学習で使用する教材は学生が自ら準備するというのもHANDSの活動の特色の一つとなっています。

活動は毎週火曜と金曜の夜、土樋キャンパスで開催。取材に伺ったこの日も、初めて受講するという方やベテランの方など10人ほどの外国人受講者が集まり、学生たちとともに熱気あふれる活動を行っていました。

STUDENT'S VOICE

渡邉 奈那 さん
教養学部言語文化学科４年
「日本語教員をめざしています。HANDSの活動を通して、日本語を学ぶ側の立場に立って日本語を見ることができるようになりました」

山口 泰生 さん
教養学部言語文化学科４年
「さまざまな国の方と知り合うことができました。文化はもちろん感性や考え方の違いなど多くの発見があり、視野が広がりました」

学務部より　学生にも教員にも厳しい“今”の授業

学務部長　加藤 健二

大学の授業は、例えば半期に15回行うことになっています。1回の講義は90分ですが、学生は予習にも復習にも同じだけ（90分以上の）時間をかけることが“法律で”決められています。ひと昔前なら、「まあ規則はそうだろうが、おおらかにやりましょう」という風潮もなかったわけではありません。しかし、その結果「大学の授業は弛んでいる。学生は何も身につけていないではないか」との批判が高まり、文部科学省も規定通りの授業を、学生の身につく授業を実施しているか、厳しく監視するようになりました。手抜きがあると大学への補助金が減額されてしまうのです。

ですから、教員は1回休講すれば、必ず他の時間（時間割と異なる時間）にその分の授業（補講）をしなければなりません。当然学生はその時間に出席せねばならず、アルバイトの先約があるからと欠席することは認められません。そして15回授業のうち、3回以上の欠席があると、多くの授業で合格を取ること（単位取得）が難しくなります。また、東北学院大学では今年度より、学期末の一斉試験期間を廃止し、15回の授業の中で繰り返し行われる小テストや課題提出などを通して学生の学修過程をきめ細やかに適切に評価することとしました。

このように、現在の学生にとっては、しっかりと予習復習しながら毎回の授業に出席することが必須となっています。保護者の皆様もこの点をご理解いただき、学生を励ましていただければ幸いです。

就職キャリア支援部より　学生一人一人の就職・進路のため

就職キャリア支援部長
ロング クリストファー

昨年度の96.6％の本学の卒業生の就職率が語るように、就職の「売り手市場」が近年続いております。しかし、学生が希望する業種・職種によっては、相変わらずの厳しい状況が続いております。そのため、学部1年生から大学院生まで、学生の就職・進路活動を支援しております。

学部1年生に対して、自分を知るためのコンピテンシー診断を実施しております。また、学部1年生の80％以上が履修するキャリア教育科目を提供しております。学部2年生に対しては、職務適性テストも実施しております。

学部3年生及び修了見込み1年前の大学院生に対して、就職活動の開始に向けたガイダンスをほぼ毎月、本学主催のTGインターンシップ（学部2年生を含み）、「保護者のための就職セミナー」（文系11月・理系1月）、企業研究セミナー（3月）などを実施しております。そして、学部の4年生及び終了予定の大学院生に対して、就活に欠かせない履歴書・エントリーシートの添削、面談やグループディスカッションの指導、8月開催の就職セミナーなど、数多くの支援事業を行っております。

皆様の手元にこの冊子が届く頃、就職が決まらないと諦めかける学生が見受けられます。就職キャリア支援部では10月から年度末にかけ、未内定者に対して「企業の単独セミナー」など、様々な支援を継続的に行っております。決して一人で悩まず、早めに就職キャリア支援課で相談を受けることを願っております。

学生一人一人のこれからの就職・進路のため、就職キャリア支援部の教職員が一丸となって努力をしております。今後とも、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学生部より　奨学金の充実に向けて

学生部長　石垣 茂光

昨年度から「予約継続型奨学金 3L奨学金」を創設しました。これは入学試験を受ける前の段階で奨学金の予備申請を行い、受験前に採否が決まり、入試に合格すれば奨学金がもらえることが受験前にわかるという仕組みです。しかも、給付額は初年度学生納付金相当額で、2年生以降も一定額が継続支給されます。給付型ですので返却は不要です。現在の定員は60名ですが、今後は定員増も計画しております。

経済的格差により、学びたいとの意欲を持ちながら進学できない生徒に対する支援としての奨学金として学内外から一定の評価を得ております。オープンキャンパスや進路相談会においても多くの方から問い合わせをいただいております。

他方、在学生については、成績優秀者に対する特待生・優等生制度があります。また、経済的な困窮度に応じて給付奨学金が毎年100名に給付されます。さらに、突然の家計急変等に対応するために、緊急給付奨学金があり、当該学期の授業料相当額が給付されます。東日本大震災被災学生支援給付奨学金は今も継続して給付され、1000名を超える学生に給付される年もありました。

このように、本学の奨学金は、経済的な問題に対処するものと、学業優秀者に対するものの双方をカバーするものであり、さらにはすべて給付型になっております。しかもその対象者は進学予定者から在学生までと幅広いものとなっております。

今後も奨学金制度をさらに充実させ、経済的な不安なく勉学を継続でき、また成績優秀であればその努力に報いるものとして、充実した学生生活を送ってもらえるよう経済的な支援をしていきたいと考えております。

TGMIND公式Twitterアカウントを開設しました！

@tgmind2018

https://twitter.com/tgmind2018

INFORMATION

後援会の主な事業・助成のご紹介

- 後援会総会、大学開放プログラム、地区後援会の実施
- 東北学院大学後援会資格取得報奨制度
- 体育会、学生会、文化団体連合会等の課外活動団体への助成
- 就職活動に対する助成
- 東北学院大学各種奨学金への助成
- 保健衛生に対する助成
- 「保護者のための大学ガイド」、「グロース（春・秋）」、「カレンダー」の発行

ホームページのご案内

後援会の最新情報や、後援会総会、地区後援会のご案内などを、随時更新いたします。

http://www.tgu-kouenkai.org/